

「きちんと知りたい においと臭気対策の基礎知識」

光田恵（編著） 岩橋尊嗣・棚村壽三（著）

213ページ，¥2,530-
（日刊工業新聞社，2018年5月28日発行）

かつて「におい」の問題というと、工場などが原因の悪臭問題が中心でした。1971（昭和46）年に悪臭防止法が制定され、悪臭対策が進むと、一時的に悪臭苦情件数は減少したものの、その後は廃棄物の野外焼却，飲食店や近隣住宅などからのにおいが苦情対象となりました。近年では，生活者の衛生意識の高まりによって室内用の芳香・消臭・脱臭剤や香りを付加価値とした製品が多く販売されるようになり，強い芳香が問題となるなど，生活者を取り巻くにおい環境は大きく変化しています。

また，多くの生物はにおいを感じることで食べ物を探したり，危険を察知したりします。においには危険を知らせる役割があり，私たちもにおいを嗅いで腐敗した食品を察知します。さらに，風邪などで鼻が詰まっているときには味が分からなくなるように，においは味わいにも大きく関係します。においから季節の変化を感じ，好きなにおいを嗅いでリラックスしたり，香りで空間を演出したりすることもあります。

このように，においにはいくつもの役割があり，生活環境の快適性を考えるための重要な要素の一つであるにも関わらず，本書の「はじめに」でも述べられているように，学校教育の中でにおいに関して学ぶ機会ほとんどありません。本書の「第1章 におい物質を知る」，「第2章 においを感じるメカニズムと嗅覚特性」では，におい物質とは何かということや嗅覚メカニズムについて，豊富な図表を示しながら優しい表現で説明されています。化学や生物が苦手な方にも読み進めやすい構成となっています。「第3章 不快なにおいの種類と基準値」，「第4章 においを測る・評価する」は，悪臭防止法や室内のにおいの基準値，嗅覚測定法や機器測定法など，におい研究を進めていく上で必要な基礎的な知識が詰まっています。「第5章 臭気対策の考え方」，「第6章 室内の臭気対策事例」では臭気対策の考え方や生ごみ臭，排泄物臭，調理臭など身近なにおいの対策のポイントが紹介されています。本書は，生活環境に関わるにおいを対象に，その特性から測定・評価，対策まで体系立ててまとめられており，これからにおい研究を始めようと思っている方やにおいについて専門的に学びたいと思っている方の最初の1冊としておすすめです。

（東京学芸大学 総合教育科学系生活科学講座 萬羽郁子）

